

新生児蘇生後の観察・ケアの重要性について

NCPRのアルゴリズムによれば、新生児蘇生後の児は、注意深く呼吸観察を継続し、「努力呼吸やチアノーゼの確認」をしていく必要があるとされています。またそれらが速やかに改善していても、従来より「体温管理」「血糖管理」についての観察・ケアは重要とされています。新生児蘇生後は、たとえ状態が改善していたとしても、仮死による影響を考慮し、引き続き注意深い観察・ケアを忘れないように気をつけていきましょう。

体温管理

新生児は、体積に比して体表面積は大きいため、容易に低体温、高体温となります。すべての週数の新生児において、出生後の低体温（体温 $<36^{\circ}\text{C}$ ）、高体温（ $>38^{\circ}\text{C}$ ）は、新生児死亡率や罹患率の上昇を招くとされ、至適体温（中心体温で $36.5^{\circ}\text{C}\sim 37.5^{\circ}\text{C}$ ）を保つことが重要です。室温（空調）、寝衣、寝具など適切に調整していく必要があります。

血糖管理

子宮内では常時グルコースは供給されていましたが、出生と同時に胎盤からの供給は遮断されます。通常、満期産児では肝臓・筋肉に多くの糖を貯蔵しているため、直ぐに低血糖になることはありませんが、仮死・低体温・努力呼吸・感染症などがあると糖の消費量が多くなるため、低血糖となるリスクが高くなるので注意が必要となります。また低血糖のみならず、高血糖も神経障害の原因となりうるので、血糖値は正常範囲に維持するよう観察とケアを行うことが大切です。

必要時には、生後30分以内に血糖値のチェックを開始し、2回連続して血糖値 50mg/d 以上となるまで30分ごとに測定していきます。

参考・引用文献)

『1週間で学ぶ新生児学』河本昌彦著（kinpodp）p56-57

『NCPR 新生児蘇生法テキスト（第3版）』（メデイカルビュー）p89-90

『助産業務ガイドライン2014』p30-31